

岐阜県政記者クラブ加盟社各位

令和８年１１月１３日（金）　岐阜県発表資料			
担　当　課	担　当　係	担　当　者	電話番号
秘書広報課	広聴広報係	武山	内線 2136 直通 058-272-1115 FAX 058-278-2506

第４９回県政世論調査結果について

このたび「第４９回県政世論調査」の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

１　調査の概要

（１）調査の目的

県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

（２）調査の経緯

昭和４２年から実施、今回４９回目

※昭和 42 年～昭和 61 年：毎年実施、昭和 63 年～平成 18 年：隔年実施、平成 20 年～：毎年実施

（３）調査項目

１５問

（４）調査時期

令和８年７月１日～２４日

（５）調査の設計

・調査対象　　県内に居住する満１８歳以上の男女個人

・標本数　　３，０００人

・抽出方法　　層化二段無作為抽出法

※県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じ比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うもの。

・調査方法　　郵送法・オンライン調査法の併用
（オンラインは令和３年から実施）

・有効回答数、回答率

実施年度	標本数	回答数	回答率	有効回答数のうち オンライン回答数（割合）
第 49 回（令和８年度）	3,000	1,766	58.9%	661（37.4%）
第 48 回（令和７年度）	3,000	1,644	54.8%	617（37.5%）

２　調査結果の概要

別紙のとおり

※調査結果の詳細は県のＨＰをご参照ください。

https://www.pref.gifu.lg.jp/page/524034.html

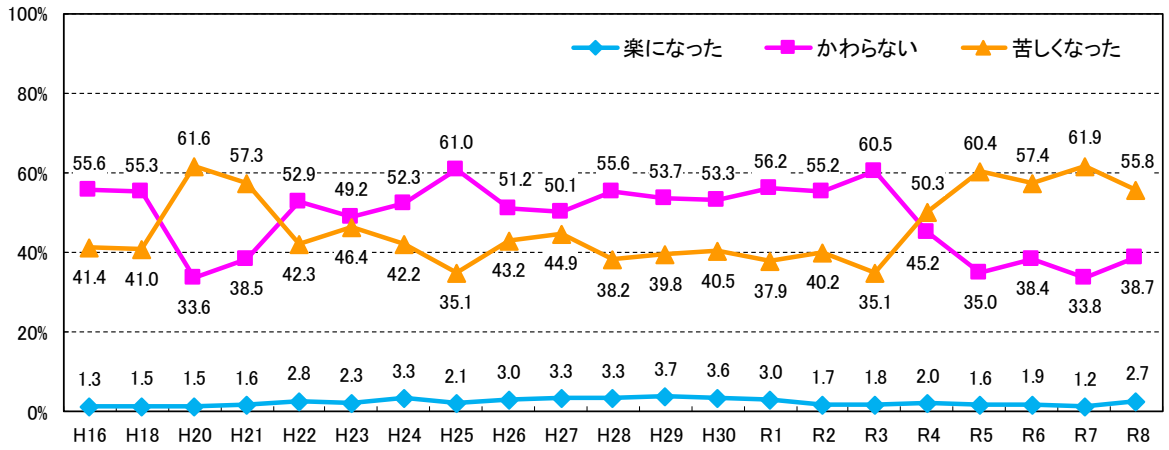
別紙　調査結果の概要

1　くらしについて

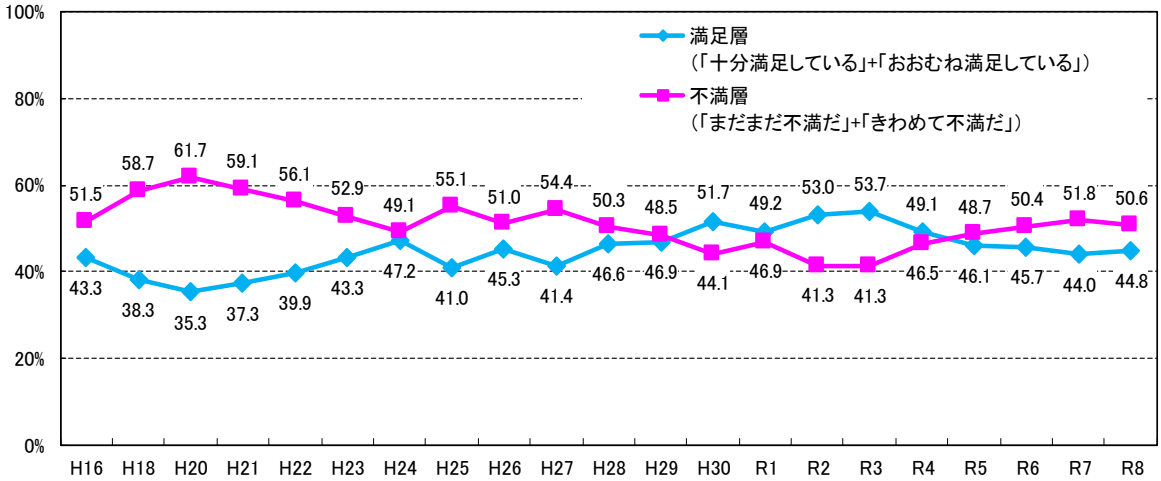
○くらし向きは「苦しくなった」が約６割を占め、くらし全般の満足度は４年連続「不満層」が「満足層」を上回った。

・家庭のくらし向きは、「苦しくなった」が 55.8%（前年に比べて 6.1 ポイント減少）、「楽になった」が 2.7%（前年に比べて 1.5 ポイント増加）、「かわらない」が 38.7%（前年に比べて 4.9 ポイント増加）となっている。
・くらし全般の満足度は、「十分満足している」と「おおむね満足している」を合わせた「満足層」が 44.8%（前年に比べて 0.8 ポイント増加）、「まだまだ不満だ」と「きわめて不満だ」を合わせた「不満層」が 50.6%（前年に比べて 1.2 ポイント減少）となり、４年連続「不満層」が「満足層」を上回った。

◆くらし向き



◆くらし全般の満足度



○くらしの中で感じる悩みや不安の主な要因は、「健康・体力」が最も高い。今後重視していきたいことは、「健康・体力づくり」が前年に続き最も高く、約６割となっている。

・くらしの中で感じる悩みや不安の主な要因は、「健康・体力」が 68.5%（前年に比べて 7.2 ポイント増加）、次いで「収入・貯蓄」が 64.2%（前年に比べて 0.9 ポイント減少）となっている。
・今後のくらしの中で重視していきたいことは、「健康・体力づくり」が 64.3%と前年に続き最も高く、次いで「家計の安定・充実」の 53.3%となっている。

◆くらしで感じる悩みや不安

順	項目	R8	R7（順）	対前年（ポイント）
1	健康・体力	68.5%	61.3%（2）	7.2
2	収入・貯蓄	64.2%	65.1%（1）	▲0.9
3	介護	25.5%	23.2%（4）	2.3

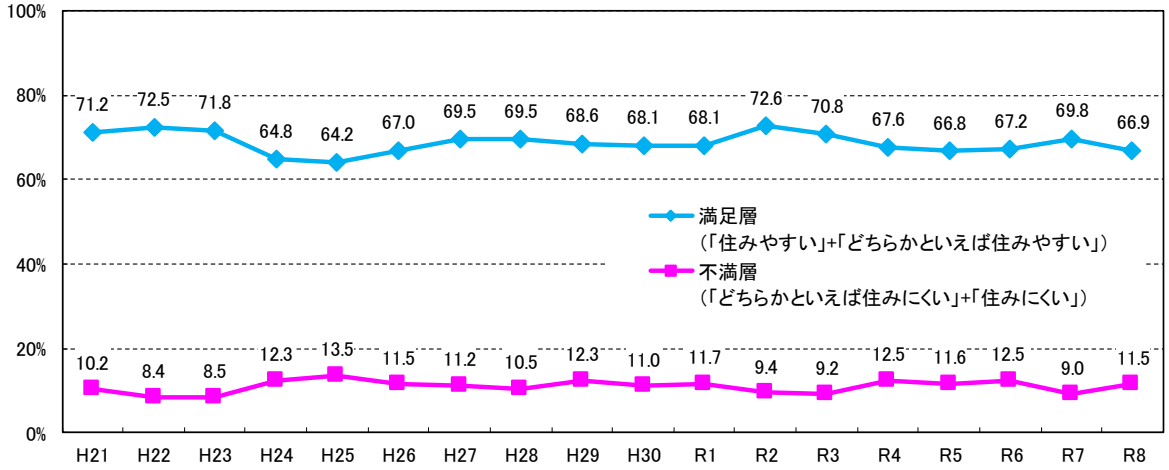
◆今後重視していきたいこと

順	項目	R8	R7（順）	対前年（ポイント）
1	健康・体力づくり	64.3%	59.5%（1）	4.8
2	家計の安定・充実	53.3%	53.2%（2）	0.1
3	老後の生活への準備	39.0%	35.8%（3）	3.2

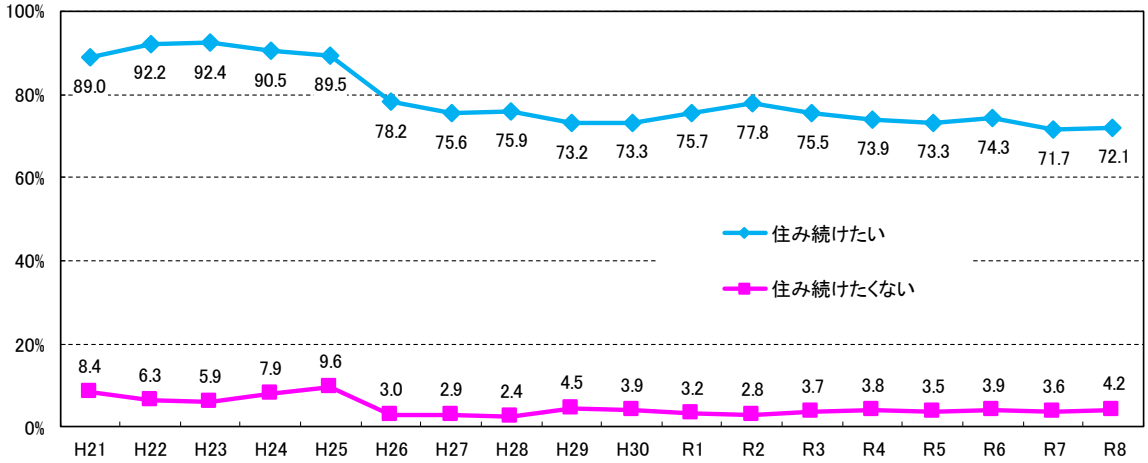
○住みやすさの評価は、前年に続き約７割が「住みやすい」と感じており、「岐阜県に住み続けたい」としている。

・現居住地域が「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた「満足層」が 66.9%（前年に比べて 2.9 ポイント減少）、「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」を合わせた「不満層」が 11.5%（前年に比べて 2.5 ポイント増加）となっている。
・「岐阜県に住み続けたい」が 72.1%（前年に比べて 0.4 ポイント増加）と引き続き高い水準となっている。

◆住みやすさ



◆定住志向

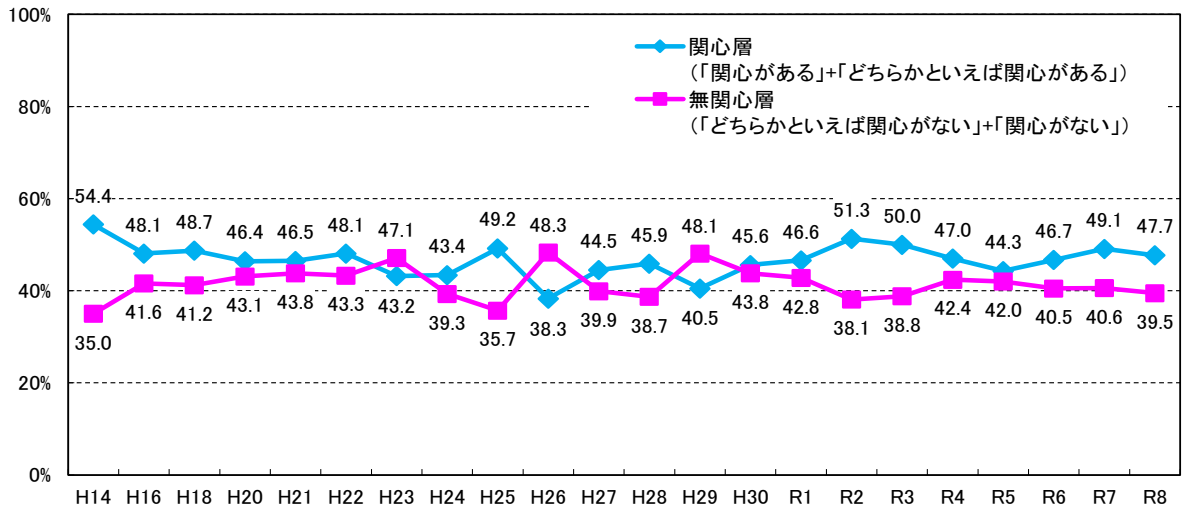


2　県の取組全般について

○県事業への関心は、９年連続で「関心層」が「無関心層」を上回っている。

・県事業に対しては、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた「関心層」が 47.7%（前年に比べて 1.4 ポイント減少）、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた「無関心層」が 39.5%（前年に比べて 1.1 ポイント減少）となり、９年連続で「関心層」が「無関心層」を上回っている。
・関心がない理由は、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が 37.2%と前年に続き最も高くなっている。

◆県事業への関心の有無



◆県事業に関心がない理由

順	項　　目	R8	R7（順）	対前年（ポイント）
1	県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから	37.2%	31.6%（1）	5.6
2	県がどのような仕事をしているのか知らないから	23.7%	27.8%（2）	▲4.1
3	自分たちの意見が反映されるとは思えないから	18.9%	19.5%（3）	▲0.6

○県の取組で、よくやっていると思う分野は「防災対策」が前年に続き最も高くなっており、努力が足りないと思う分野は「少子化対策」が最も高くなっている。

・県の取組でよくやっていると思う分野は、「防災対策」（23.2%）、「道路整備・維持管理」（14.3%）、「高齢者福祉」（13.8%）の順となっている。
・県の取組で努力が足りないと思う分野は、「少子化対策」（19.0%）、「公共交通の充実」（18.8%）、「若者の県内定着」（18.8%）の順となっている。

◆県の取組でよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

よくやっている					努力が足りない				
順	項　　目	R8	R7（順）	対前年（ポイント）	順	項　　目	R8	R7（順）	対前年（ポイント）
1	防災対策	23.2%	25.0%（1）	▲1.8	1	少子化対策	19.0%	21.7%（2）	▲2.7
2	道路整備・維持管理	14.3%	14.8%（3）	▲0.5	2	公共交通の充実	18.8%	17.9%（3）	0.9
3	高齢者福祉	13.8%	12.8%（6）	1.0	2	若者の県内定着	18.8%	22.7%（1）	▲3.9
4	子育て支援	13.4%	13.3%（5）	0.1	4	高齢者福祉	15.2%	12.8%（5）	2.4
5	地域医療の確保	13.1%	12.4%（8）	0.7	5	子育て支援	14.3%	14.4%（4）	▲0.1

○今後、県が重点的に進めるべきだと思う分野は「高齢者福祉」、「防災対策」、「少子化対策」、「地域医療の確保」の順となっている。

・重点的に進めるべきだと思う分野は、「高齢者福祉」（30.7%）、「防災対策」（26.6%）、「少子化対策」（23.7%）、「地域医療の確保」（23.4%）の順となっている。

◆重点的に進めるべきだと思う分野

順	項　　目	R8	R7（順）	対前年（ポイント）
1	高齢者福祉	30.7%	26.4%（4）	4.3
2	防災対策	26.6%	31.6%（1）	▲5.0
3	少子化対策	23.7%	27.3%（2）	▲3.6
4	地域医療の確保	23.4%	22.2%（5）	1.2
5	子育て支援	23.2%	26.5%（3）	▲3.3